

議案第76号関連資料

認知症あんしんプロジェクト ～みんなで支えるやさしいあかし～ について

1 目的

新型コロナウイルス感染症の影響で、支援や介護を要する在宅の高齢者は、感染対策を実施する中で、介護サービスや地域の通いの場等の利用の制約、外出の自粛など生活環境の変化で、心身の機能が低下するなど、日常生活に支障を生じている現状が見られます。

特に認知症の人については、物忘れや徘徊、被害妄想、介護拒否などの多様な症状の発症および進行が生じているにも関わらず、身体的に影響がないなどで自覚することが難しく、早期の医療や支援に繋がりにくい状況にあります。そのため、在宅での介護は、家族や介護者で抱え込むことも多くなることから、その精神的、身体的負担は非常に大きく、その人に応じた生活上の支援が必要とされます。

については、新型コロナウイルス感染症で、心身の影響を大きく受けた在宅の要支援・要介護高齢者への交付金をはじめ、新たな施策を実施することで、認知症の人やその家族が早期支援、継続支援へ繋がることができ、認知症になっても皆で支え合い、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域共生社会の実現に向けて、包括的・継続的な総合支援を展開します。

2 事業の概要

(1) 在宅介護あんしんサポート交付金の支給

在宅で支援や介護が必要な人（要支援・要介護認定者等 約 13,000 人）に対し、1万円の交付金を支給します。

さらに、認知症の診断を受けている人（約 6,000 人）に2万円を上乗せして支給し、交付金申請をきっかけに早期の支援や見守りに繋がります。

(2) (仮称)「あかしオレンジ手帳」(認知症手帳)の交付

認知症の交付金対象者（約 6,000 人）へ、医療等の受診履歴や介護サービスの利用状況、認知症の症状等が経年的に記載出来るとともに、認知症への対応方法や相談場所などあらゆる情報を掲載した(仮称)「あかしオレンジ手帳」を交付します。

手帳の携帯、活用により、医療・介護等の連携を図り、総合的に支援します。

(3) サポート利用券の配付

(仮称)「あかしオレンジ手帳」と同時に下記の3種類のサポート無料券を配付し、介護サービス利用のハードルを下げ、利用しやすくすることで、認知症の介護に必要なサービスを受け、介護者の負担軽減を図ります。

①お泊り券（1回分）

1泊2日のショートステイ（滞在費込、食事代等は自己負担）のサービスを受けることができる。

②配食見守り券（10回分）

本人と介護者（介護者の食事づくりは介護保険サービス外）の配食サービスを受けることができる。

③寄り添い支援サービス券（10回分）

介護保険サービス外の見守り、話し相手、外出時の付き添い（散歩、買物など）の支援を受けることができる。

3 予算：332,200千円（一般会計）

【財源】 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（第2次補正予算）

	予算額(千円)
(1)在宅介護あんしんサポート交付金	257,100
(2)（仮称）あかしオレンジ手帳	9,100
(3)サポート利用券	
①お泊り券	3,000
②配食見守り券	60,000
③寄り添い支援サービス券	3,000

4 スケジュール

令和2年10月 対象者に交付金支給についての案内を送付、申請受付、支給開始
令和3年1月 （仮称）あかしオレンジ手帳、サポート利用券の送付

5 既存事業の充実

新規事業の実施とあわせて、早期の気づきや支援を強化するため、以下の既存事業を充実させ、認知症の総合支援体制を図ります。

(1)「認知症相談ダイヤル」の周知

社会福祉協議会に設置している「認知症相談窓口」を「認知症相談ダイヤル」と名称を変更し、本人をはじめ家族や近隣、地域の関係者などが、認知症に気づいた時や困った時にはいつでも気軽に電話で相談出来るよう、改めて市民へ周知を図ります。

(2) 認知症早期支援事業の拡大

認知症チェックシートで認知症の疑いのある方に診断費用を助成するなどの認知症早期支援事業の対象者を65歳まで引き下げるとともに、若年性認知症の疑いのある人も診断費用助成の対象とするなど、利用対象者を拡大し、早期の気づきや受診を図り、支援へ繋がめます。